



長期休養明け入間田岡が初V!

風さそふ花よりもなほ我はまた... 桜吹雪舞う板橋平和公園で4月11日(日)第十四期NIB王戦を開催した。春に誘われて中村橋児童館から大挙10名の参加があった。伊佐Pの教えが良いのかみんな礼儀正しく、元気一杯の仲間たちだ。さらに、高校生になった篠ケン、篠ヒデ、加藤君のNIB一期生が久しぶりに顔を見せてくれた。初めて会った小2の頃を昨日のここのように思い出す。みんな立派になったなあ。

同一タイトルを3回獲ると永世の称号が与えられる。誰がその第1号となるか興味が尽きないが、今回は夢宙人田口と松ちゃんにその資格がある。しかし、それを阻止するべくなんと68名もの参加者で会場は埋まった。これは、正月のグラチャンの記録を抜く最多の参加者だ。すごいよねえ。

その人数に圧倒されたか、松ちゃんがまさかの予選落ちだ。先月鉄人レースでV2を果たしたのにこれなんだから、ベーゴマはわからない。そんな波乱を呼ぶ予選を勝ち抜いたのは、チョット今村、HIROSHI、タイキ、林ユイ、まみい、ハルク、入間田岡、チホコ(久しぶり~)、ケンタ(中村橋)、マックス吉岡、夢宙人田口、ミセス、ユウキ、シゲ(中村橋)、マッチ吾野、つぐみ、奥田パパ、平井おやぢの18名だ(順不同)。さらにこの中から9名に絞られる決勝ブロックだが、まみいが飛ばした。2位を

18点差で大きく引き離す48点だ。ベーもいいんだねえ。その他準決勝にコマを進めたのは、入間田岡、シゲ、つぐみ、チョット今村、ケンタ、タイキ、ハルク、夢宙人田口の9名だ。シゲとケンタの中村橋組が初出場でベストナインに入った。やるよねえ。夢宙人はといえば9人目でしぶとく残っている。こういう時は不気味なんだなあ。

9名に絞られた準決勝、まあ誰が決勝に来てもおかしくないが、キャプテン得点倍付けルールで一気に逆転がある。それを活かしたのはつぐみと夢宙人だ。逆に泡を喰らったのはまみいとシゲの二人、コツコツ得点を重ねてもこれがあるから怖いねえ。この二人に入間田岡を含めた3名による決勝8番勝負となる。

まず飛ばしたのは入間田岡だ。2番戦い16点、これにつぐみが喰らいつき3点差に迫る。しかし、田岡が踏ん張りリキ勝ち2回で引き離し、7番戦って田岡22点、つぐみ13点、夢宙人1点で最終8番戦となる。キャプテンのつぐみが2つ飛ばせば9回裏2アウト逆転満塁ホームランだが、老練田岡は落ち着いていた。無理せず真ん中ドンでリキ勝負。こうなると低い田岡ベーはなかなか飛ばせない。案の定10秒ルールで引き分け、



つぐみちゃん、入間田岡 おめでとう!



つぐみの逆転ならず、田岡悲願の初優勝だ。冬場は外出を控え長期休みに入る入間田岡だが、その間ベー作りにも励み念入りに細工を施したに違いない。「今年は肺炎にもならなかったから調子いいよ。」春の訪れとともにやって来た伯楽は意気軒昂だ。桜吹雪舞う平和公園に入間田岡の笑顔が残った。



女流はつぐみ、子ども王は該当者なし

つぐみちゃんは予選 68 名中 4 位、決勝ブロック 18 名中 4 位、準決勝を 3 位で通過し決勝で準優勝だ。戦った相手もまたすごい。ギャオス、床イシ、入間田岡、夢宙人田口、タイキ、平井おやぢ、マックス吉岡、ユウキ、まみいなどだ。予選から決勝まで猛者相手に 46 回対戦して準優勝だ。これは凄いことだ。ベーもいいに違いないが、つぐみちゃんの精神力が並ではないのだろう。そうとしか思えない。常に飄々と気負いもなく落ち着いている。どうしたらそんな風にしていただけるのだろう。今度その秘訣をおせて。

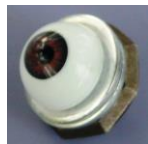


伊佐P おめでとう！

プレ霸王戦は伊佐 P が優勝



プレ霸王戦として生き残った面白ベー対決、年一回くらいこんな遊びもあっていいよね。一例を挙げると、プロペラベー、ネオンベー、点滅ベー、目玉おやじベー、スイーツベー、電飾ベー、おかまベーなど。この他写真は撮れなかったが、ローズベー、カメラベー、ベーブレードキットベーなど、みんな様々な工夫を凝らしたベーを持ち寄った。戦いはいつものように壊れるベーが続出するが、女流ではれいなちゃんがただ一人決勝トーナメントに残った。やるよねえ。マックスの目尻は下がりっぱなしだ。決勝では伊佐 P 電飾ベー（着脱式）がチョット今村ローズベーを破り、第八期霸王となった。写真に撮れなかった面白ベーがたくさんあったので、次回は全員集合写真を撮りましょう。



ハリケツに関する一考察 その②

「そんなベーゴマ作ってるの。」ハリケツに心血を注いでいた私たちにとって、それは辛らつな一言だった。そして白ヒゲのおじさんは様々なベーゴマを見せてくれた。星の砂を埋め込んだベーゴマ、ベーゴマのキーホルダー、宝石のようにキラキラ光るベーゴマ、そんな宝物のようなベーゴマに唖然とするばかりだった。そのベーゴマのすべてが綺麗な八角形に塗り上げていた。その気品ある出で立ちは、「ホンモノ」を強烈に印象付けた。「井の中の蛙」まさに私たちのことだった。こうして知り合った白ヒゲのおじさんと付き合いを深めていくに連れ、その博識と技術のすごさに心酔していった。そんな、ベーゴマの酸いも甘いも知り尽くした人の一言だけにこの言葉は重かった。私たちの前には新しい世界が見え始めていた。すると、そこへまた新しい三人の男たちが現れたのだ。（つづく）

NIB カップについて



6月13日(日)は第1回NIBカップだ。4年に一度行われるこの大会のルールには、ホーム&アウェー方式を採用する。ホーム&アウェー方式とは、アウェーの人が先に入れ、タッチのチでホームの人が後入れする。ツッケン、ガッチャありだ。タイミングが合わず、タッチのチで入れられなかったらホームの負け。また、アウェーの人は入れる前にベーゴマを相手に見せなければならない。これを互いに行い勝負を競う。かなり高い技術が要求されるし、禁止されているルールを敢えて採用するリスクも伴うが、やってみる価値はあるだろう。